

高齢化率が上昇している上ノ国町、これからも長く運転していくために

高齢者の運転を考える



全国で相次ぐ

高齢者の交通事故

上ノ国町の現状

現在、日本全国で高齢者ドライバーによる交通事故が増加しており、国や警察が対策に乗り出しています。

高齢者による交通事故は、主に視力や判断力の衰えによる運転技能の低下や、認知症などが原因とされています。

本町の運転免許取得者は3月末時点で3138人、そのうち70歳以上が528人で、6人に1人が高齢者です。

昨年度、町内の自動車による物損事故は51件発生し、そのうち高齢者による交通事故は12件でしたが、幸い命にかかわる大きな事故はありませんでした。

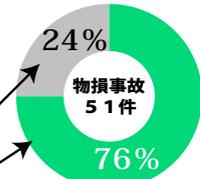
本町は今年1月に、高齢者を含む多くの方の安全運転によって、交通死亡事故ゼロ連続3000日を達しています。

これからもこの記録を1日でも長く更新し、安全に運転していくために、今一度運転について見つめ直してみませんか？

町内での事故発生件数(28年度) ※江差警察署調べ

物損事故全 51 件中
(死亡事故0件)

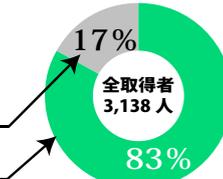
70歳以上 12件
70歳未満 39件



町内の運転免許取得者数(29年3月末現在) ※江差警察署調べ

全体 3,138 人中

70歳以上 528人
70歳未満 2,610人



高齢者による交通事故の特徴

高齢者による交通事故の割合は、全国的に見て、全年齢の中でかならずしも高いわけではありません。警視庁が毎年発表している交通事故の年齢別発生件数では、16〜19歳が最も多く、次いで20〜29歳、65歳以上の高齢者による事故件数はその次になります。

しかし、高齢者の交通事故が社会問題化した背景には、事故内容が大きく起因しています。

例えば、ニュースなどでは、『道路を逆走して正面衝突』『児童の列に突っ込む』などの特異な事故で大変ショッキングな事例が報道されており、アクセルとブレーキの踏み間違いなど年齢による身体機能の低下が大きく影響しています。

これからも、長く運転していくために
高齢になっても安全に運転するためには、普段から自分の運転技術が衰えていないかチェックすることが大切です。

高齢者による事故は、多くの場合、『これまで大丈夫だったことが、いつの間にかできなくなっていることを自覚しないまま運転していた』という状況で起きており、改正された道路交通法では、免許更新時にこの点が厳格に検査されます。違反をせず、事故を起こさず、長く運転していくためには、新たな制度を理解し、今の自分を見つめ直す必要があります。

